



## 大学 倉嶋ゼミ「卒業制作展」開催

1月11日～21日、経営学部でイメージリテラシーを研究する倉嶋正彦教授のゼミナールに所属する4年生17名の卒業制作展が、本郷キャンパスまちづくり研究センター(まちラボ)で開催されました。

倉嶋ゼミでは、学生の自由なテーマ設定の下、それを実際に視覚化し、作品化することを目的に活動しています。卒業制作展では「インフォグラフィック」と「テーマフリーのアートやデザイン」の各々2つの作品を制作しました。制作にあたっては、なんなく「作りたいから作る」のではなく、「社会を取り巻く問題」や「興味を惹くデザインのニーズとはなんだろう」と、経営学を学ぶ学生ならではの独自の視点を取り入れました。

SDGsや環境問題を意識したインフォグラフィック作品など、3年間のゼミ活動の成長を感じさせる卒業制作展となりました。ゼミ長の増田珠美さんから次のコメントが寄せられました。

増田「ゼミに入室した時は、例年通り仁愛ホールホワイエ空間で卒業制作展をするのかと思っていたましたが、コロナ禍で一変。急速、会場を『まちラボ』で開催することになりました。



## 大学 「ウルグアイ国の今を知る」公開セミナー開催

ウルグアイ国に対する異文化理解を目的とした公開セミナー「ウルグアイ国の今を知る」が、1月19日にオンラインと対面のハイブリット形式で開催されました。同セミナーは、桑子順子外国語学部教授(代表)、倉嶋正彦経営学部教授、石黒久仁子外国語研究科非常勤講師の共同研究「ウルグアイにおける文化的映像力のグローバルの価値と異文化理解」の一環として実施され、一般参加者や教職員など約30名が参加しました。



当日は、前駐ウルグアイ特命全権大使の眞鈴竜日郎氏が「ウルグアイと日本の絆・KIZUNA -小さくともキラリと光る国-」をタイトルに、ウルグアイの現状と展望、様々な分野で関係を築いてきた日本との絆、さらにはスポーツ、文化、名産品などについて講演しました。参加者は普段なかなか知ることが出来ないウルグアイの魅力について学び、異文化への理解を深める充実した時間を過ごしました。

## 大学 「メンタルトレーニングセミナー VOL.2」開催

コロナ禍での地域貢献を目的とした「ストレスをエネルギーに変える メンタルトレーニングセミナーVOL.2」が、2月11日にイオタウンふじみ野2F「cotokoto」にて開催されました。当日は、人間学部の梶原隆之教授が講師を務め、同学部にて実施している講義カリキュラム「メンタルトレーニング論」の一部を、簡単かつ実践的な内容にアレンジして、コロナ禍におけるストレスとの向き合い方や、自宅でできるメンタルトレーニングの方法を事前申し込みをした先着10名の受講生が体験しました。また、その様子をYouTubeでライブ配信しました。



梶原教授は「私たちの日々の生活は、コロナ禍のことを含めて『ワイスストレス』です。ストレスとの付き合い方によって、心と身体へのダメージがずいぶんと変わってきます。人とつながりを持って支えがあると思うことは、それだけでストレスを緩和します。皆さんとトレーニングをさせていただくことは私の喜びです。一緒に楽しみましょう」と、参加者にメッセージを贈りました。

## 大学 「多職種連携&コラボレーションシンポジウム」開催

「多職種連携&コラボレーションシンポジウム」(主催:多職種協働チームのヘルスケアサービスの質に対するインパクトの国際的実証研究、多職種連携協働におけるリーダーシップ機能解明に関する実証的国際共同研究)が、2月5日にオンラインにて開催されました。

多職種連携とは、様々な専門的スキルを持った医療従事者が集まり、それぞれの立場の視点を生かし意見を重ね、一人の患者さんに対するよりよいケアを追求することが出来るとして、重要視されています。本学からは、公衆衛生学・疫学の研究者である保健医療技術学部の藤谷克己教授が登壇し「多職種連携に求められるコラボレーティブ・リーダーシップ」について講演しました。当日は、医療関係者など約60名が参加し、学識経験者と実務者による先進的なアプローチについて熱心に聴き入り、有意義なシンポジウムを堪能しました。



## 大学 「-ジェンダー×看護×福祉-シンポジウム」開催

「地域社会の見える化:『居場所』をめぐって-ジェンダー×看護×福祉-シンポジウム」(主催:文京学院大学まちづくり研究センター 後援:ふじみ野市・文京区・文京区社会福祉協議会)が、2月12日にオンラインにて開催されました。

当日は、近年注目される「地域社会での居場所づくり」について、コミュニケーション論・まちづくり論を専門とする人間学部の古市太郎准教授がコーディネーターとなり、パネリストとして、外国語学部の甲斐田准教授、保健医療技術学部の米澤純子教授、人間学部の奈良環准教授が登壇。ジェンダー論、地域看護学、介護福祉学を専門とする3教員が「地域社会」×「ジェンダー・看護・介護福祉」テーマで発表しました。シンポジウム最後には、参加者と共に、孤独・孤立といった社会問題解決の糸口についてディスカッションを行い、登壇者も参加者も大変実りあるシンポジウムとなりました。



(左から) 甲斐田准教授、米澤教授、奈良准教授、古市准教授



2022.1.11-1.21  
1/14・15・16 close

展示協力:まちラボ

制作環境は、前出のようにリモート中心になり、学生間での意見交換や学内での作業が限定され、制作進行に不安を感じる状態ありました。作品内容についてもインフォグラフィックは情報をおかりやすく、正確に伝えなければならないので、情報元と伝えやすいデザインを考案するのに苦労しました。

制作を始めて約1年間、設営を終え無事に開催された達成感と経験は自信に繋がり、社会に旅立つ前の力になったと感じています



## 大学 人間学部3年生が2種類の「まちあるきコースMAP」を制作 3月より無料配布開始

人間学部コミュニケーション社会学科では「まちラボプロジェクト演習」の一環として、「文京まちあるきコースづくりプロジェクト」を実施。同学科の3年生11名が文京区内を調査しながら歩き、昨年度に引き続き、2種類の「まちあるきコースMAP」を制作しました。

### 『文京街歩きコース』

地元で人気のパン屋、隠れ家的カフェなど、文京区を訪れた際には、是非立ち寄って欲しいおいしいお店を幅広く紹介。メニューだけではなく、お店の雰囲気や営業時間を探して下さい。ページ内にあるQRコードでお店のHPやSNSを見ることができます。

制作者(敬称略):岩島宏太、小野木慶花、川本祐実、高久史帆、豊田裕之、渡部成恵



本年度は「グルメ」「映画・ドラマのロケ地巡り」をテーマに、東京都文京区周辺の施設やお店を紹介。学生たちは、文京区内でおいしいと評判のお店を自ら回り、メニューだけではなく、お店の特徴や店主のこだわりなど細かく調べ、「文京街歩きコース」を10頁にまとめました。また、映画やドラマで使用された歴史的建造物から、知る人ぞ知る穴場なロケ地を12頁で紹介する『映画・ドラマロケ地巡りコース』も制作しました。どちらのMAPも、場所が一目でわかるように、学生が工夫して地図を作成しました。完成した各2,000部のMAPは、3月1日(火)より本郷キャンパス「まちラボ」で配布するとともに、許可を得た掲載先で無料配布します。学生は、今後も地域との交流を増やし、地域活性化の一助となるような取り組みを実施していきます。

### 『映画・ドラマロケ地巡りコース』

文京区内にある、映画やドラマのロケ地として利用された施設や場所を紹介。文京区内には多くのロケ地が存在しており、このMAPを頼りに散策すると、文京区の新しい魅力を発見することができます。

制作者(敬称略):小川介士、小槽花音、春日秀太、加藤有紗、菊池美麗



## 大学 留学生が東入間警察署の「110番通報体験会」に協力

埼玉県東入間警察署から外国语でも110番通報が可能であることを周知するための企画への参加協力依頼を受け、留学生の王新銘さん(外国语学部3年)と徐楚さん(経営学部3年)が、1月4日に開催された「110番通報体験会」に参加しました。

同体験会は、日本に暮らす外国人の方々に対して、母国語でも110番通報が可能であることを知つてもらう取り組みです。当日は、王さんと徐さんが路上でひたくなり被害に遭い、中国語で110番通報をするという想定で行われました。2人は「母国語で対応してもらえたので安心した。外国语で110番通報ができる事を知らなかったので友だちにも伝えたい」と、話しました。



## 大学 一般社団法人日印女子フォーラムと協力し「おうちやプロジェクトver.2」実施

コンテンツ多言語知財化センターは、2011年に東日本大震災復興支援プロジェクト「フレーメンズ」を立ち上げ、現在も様々な支援プロジェクトを学生主導で実施しています。その一環として、2020年からは、新型コロナウイルスの影響で長期化する自粛期間の中で、素敵なおうち時間を過ごしてほしいという想いから「おうちや時間(=「おうち時間」×「お茶」)」プロジェクトをスタートさせました。

2年目となる今年は、一般社団法人日印女子フォーラムの協力のもと、インドを旅しているかのような時間と空間で、お茶を楽しむ企画「おうちやプロジェクトver.2」を展開しました。学生は、自らデザインしたフレーメンズキャラクター4種類(ロバ、いぬ、ねこ、にわとり)のマグカップ&コースターとインドのイラストマップ、インドの魅力を知ることが出来るオンライン講座をセットにした商品を提案し、SNSでの告知から、ECサイトでの小売販売まで手掛けました。

2月5日に開催したオンライン講座では、アーユルヴェーダライフスタイルカウンセラーとして活動する篠田るみ氏を講師に迎え、アーユルヴェーダ式健康法、おいしい白湯の入れ方などを学びながら、オンラインでインドの旅を楽しめる企画を実施しました。同プロジェクトでの売り上げ全額を東日本大震災はじめ、全国各地の災害復興支援団体へ寄付します。学生たちは今後も「おうちや時間プロジェクト」を通して、素敵なおうち時間を過ごせる様々な企画を開拓していく予定です。



## 大学 ふじみ野地域密着新聞「ぶんぶん新聞」発行

新型コロナウイルス感染症の影響により、地域交流が活発にできない中、ふじみ野キャンパス「まちラボ」では、学生が中心となり、ふじみ野の「衣食住」に注目して様々なことを紹介する「ぶんぶん新聞」を発行しました。

同新聞は、学生が自ら特集を企画し、近隣地域の方へ取材を行い制作しました。2021年10月に発行した第1号では「住むを支える・たたみの橋本」「地域で生まれるホウキの話」を特集として紹介し、ふじみ野キャンパスニュースや、まちがいさぎしき字などを掲載。学生たちはコロナ禍でもできる地域の方々との交流の一環として、次号の発行にも意欲を見せています。新聞制作に携わった室井孝太さん(人間学部児童発達学科1年)から次のコメントが寄せられました。

室井「ぶんぶん新聞では、ふじみ野市で活躍している方々を中心に、地域の方や大学生、教職員の皆さんを楽しませられるような題材を取り上げ活動しています。文字の大きさや、ぶりがなに気をつけながらミニコーナーなども作り、小学生から高齢者の方まで幅広い層に届くように工夫しています。まだまだ活動に制限はありますが、次号以降も地域と関わりながら制作していきます。ぜひご覧ください!」





## 「クリスマスコンサート」初開催

12月18日、駒込キャンパスジャシーホールにおいて、中学生による「クリスマスコンサート」が開催されました。

同コンサートは、例年「合唱コンクール」として実施されてきた音楽科行事の代替案として初めて企画・開催されました。音楽の授業では、昨年度から大きな声で歌うことができなくなり、歌声の聞こえない授業はとても寂しいものになってしまいました。そこで、新たにギターや鍵盤楽器による合奏へ挑戦。各学年3クラス混合でチームを作り、楽器の分担を決め、約2ヶ月間練習に励みました。

当日は、髪や楽器に飾ったクリスマスカラーのリボンで気分を盛り上げてスタート。サプライズでサンタクロースに扮した水上茂中学校校長からキラキラシールのプレゼントもあり、生徒たちは目の周りやおでこに貼って、メイクのように上手におしゃれをしていました。一生懸命演奏し、互いに拍手を送り、みんなで楽しみ、笑顔が溢れる1日となりました。



ギターに挑戦した生徒たち



クリスマスカラーで演奏を楽しむ生徒たち



## 中高 レンガの校舎がインター共用棟として歩き出しました

1月24日、この日からアオバジャパン・インターナショナルスクール(AJIS)文京キャンパスが開校し、文京学院大学女子中学校高等学校インター共用棟への登校が始まりました。100周年を目前に控える本校にとっても新しいステージの幕開けです。

AJISと本校は、2020年の教育提携締結を皮切りに、部活動やOne day留学体験などを通して交流をしてきました。自ら課題を見出し、課題解決を図る探究活動に力を入れている本校が、AJISとコラボすることで生み出す教育効果に大きな期待が集まっています。

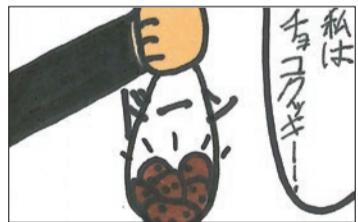


本校とAJISが新たな歩みの可能性を語る

ひたむき・まえむき・おもむき  
**tomoちゃん**

第79回

画: 美術部(高校) 亜久愛



### BOOK INTRODUCTION 書籍紹介

#### 『モビリティとことばをめぐる挑戦

#### 社会言語学の新たな「移動」』



グローバル化、デジタル化の中で移動する人とことばの関係は多様性・流動性を深め、従来の人文社会科学のパラダイムでは捉えられなくなった。「モビリティ」とことばの現実を把握するにはどのような視点や方法論が求められるのか?新井准教授らがこの課題を取り組み、21世紀の社会言語学を追究する。

編著者:三宅和子(東洋大学名誉教授)・新井保裕(外国語学部准教授)/ひつじ書房(2021年12月)/3,200円(税別)

#### 『バベルの塔の人々』



著者:山西均(外国語学部准教授)/幻冬舎(2022年1月)/1,800円(税別)